

地区	総計	世帯数	出火率
(神戸市)東灘区	20	72625 (人)	2.75 (%)
(神戸市)灘区	18	53530	3.36
(神戸市)中央区	22	50146	4.39
(神戸市)兵庫区	14	51726	2.71
(神戸市)長田区	22	52308	4.21
(神戸市)須磨区	12	61664	1.95
(神戸市)垂水区	5	80664	0.62
(神戸市)北区	1	61133	0.16
(神戸市)西区	1	46267	0.22
尼崎市	7	183842	0.38
西宮市	31	156671	1.98
芦屋市	14	32186	4.35
宝塚市	4	67357	0.59
伊丹市	7	62556	1.12
川西市	3	43906	0.68
総計	181	1076581	1.68

表-1 地区別出火件数

(2) 大規模な延焼火災が数多く発生した

今回の地震火災では、約70ヘクタールが焼失し、約7,000棟が灰塵に帰している。1,000㎡以上焼失した火災は49件あり、そのうちの10件は33,000㎡（1万坪）以上焼失の大火となった。30棟以上焼失した大規模火災を表2と図2に示す⁽⁴⁾。長田区や兵庫区などの下町（インナーシティ）で大規模な火災が数多く発生していることがわかる。

こうした大火は、地震直後に出火したものが殆どで、当日の深夜あるいは翌朝まで燃え続けている。なお、1,000㎡以上焼失した火災の約7割が地震直後に発生しており、直後の火災ほど消防力が手薄なため、大火になる危険が高かったといえる。

こうした大規模火災では、延焼速度あるいは火面規模が問題となる。それが避難の安全性と消火の容易性を左右するからである。ところで、今回の地震で概ねゆっくりと燃えており（局所的には急速に拡大した部分もあるが）、延焼速度は20～30m/時間程度（関東大震災の約10分の1の速度）である。火面高さも概して高くなく数m程度である。このため、後述するように市民消火活動が組織され、また輻射熱で死傷する人もなかった、ということが出来る。なお、延焼速度が遅かった理由としては、耐火造等が普及していたこと、風速が殆どなかったこと（最高時4m/秒）に加えて、木造家屋が押しつぶされて破壊消防状態になっていたこと、などが考えられる。

ところで、大規模な火災が多数発生した反面、火元建物内で焼け止まった火災も少なくない。7市の181件の火災の規模別の内訳をみると、そのうち97件が単体火災となっている⁽⁵⁾。マンション等の耐火造でも火災が多発（約70件発生）したが、その殆どが隣家に燃え移ることなく鎮火したこともあって、単体火災が多かったといえる。

図-2 大規模火災の発生場所

